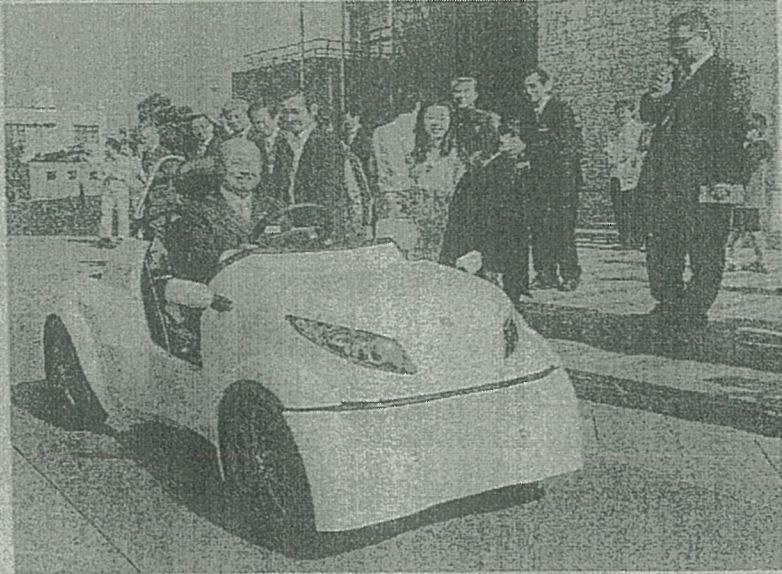


沖縄タイムズ 平成24年3月30日(金)

県産マイクロEV完成 特自貿の15社 新産業に期待



完成したマイクロEVを試乗する島袋俊夫うるま市長
＝29日、うるま市役所

【うるま】うるま市の特別自由貿易地域にある県金殖技術研究センターを中心に15社がマイクロEV（電気自動車）を完成させ、

分野の高度な知識や技術者を養成する同市の金型人材養成事業の二環。県内企業のみでEVのデザイン・設計から製造までを手掛けるのは初の試みで、同市は「マイクロEV開発を沖縄の新

たな産業に発展させ、観光分野での活用も目指したい」としている。

マイクロEVは昨年11月から製作を始め、28日夜に完成した。全長約2・3メートル、幅約1・3メートル、高さ約1・4メートル、原付き4輪の1人乗りで、1回の充電で80キロ走行可能。モーターとバッテリー以外は県内で製作、加工した。シートには伝統工芸の首里織を使用し、沖縄らしさを取り入れたスタイリッシュなデザインに仕上がっている。

大手自動車メーカーのように大量生産はせず、地域を限定した観光地や環境、福祉分野での活用を目指している。

試乗した島袋俊夫市長は「スムーズで乗り心地は抜群。観光客にうけると思う。若い人の雇用に結びつけば」と期待。金城盛順センター長は「ようやくスタートだった。沖縄は高いポテンシャルを持っており、技術やコスト、安全面での課題を一つ一つクリアしていきたい」と述べた。